

平成 20 (2008) 年度「NGO 長期スタディ・プログラム」最終報告書

提出日： 2009 年 3 月 19 日

氏名： 小嶋淳史

所属団体： 特定非営利活動法人シャプラニール＝市民による海外協力の会

受入先機関名 (所在国)： DRCSC (インド)

研修期間 (全体)： 2008 年 9 月 17 日 ～2009 年 3 月 10 日

研修テーマ： インドに見る国際 NGO、現地 NGO 及び社会活動団体の間の関係
—その歴史の変遷、今日の到達点と課題、そして今後の展望—

研修全体目標：

南アジアで活動する主に欧米系の国際 NGO が、インドの現地の NGO や社会活動団体とどのような関係を過去に持ち、現在どのような関係を結び、その際の課題は何で、今後どのように変化していこうとしているのか？について、DRCSCをはじめとするインドの NGO および西ベンガル州に事務所を置く国際 NGO から「先進事例」を学び、当会及び日本の NGO の発展に寄与する。

具体的な研修内容：

DRCSC に籍を置きながら、西ベンガル州に在住の国際 NGO およびインド NGO の事務所および活動現場を訪問し、国際 NGO とインド NGO の関係性、西ベンガル州における現在の課題について理解する。

研修の成果：

6カ月の研修期間において、以下に記載する 11 の国際 NGO および 24 のインド NGO を訪問し、それぞれの活動や団体としての経緯、目的等を伺う調査を実施した。

国際 NGO では、欧米系の NGO の中でも世界各地で活動している NGO のほとんどが、1980 年代から西ベンガル州においての活動を開始し、これまでは外国の NGO としてインド政府と合意文書を結んだかたちで直接あるいはインド NGO とともに活動していたが、ここ数年でインド政府に対して協会または企業としての登録を行い、インドの NGO として活動を実施している。一方、同じ欧米系の NGO でも西ベンガル州のみで活動しているような小規模な NGO は、団体としての登録などは行わず、インド NGO への支援を実施し、本国より年に1～2回のモニタリングを実施しているところが多い。

西ベンガル州の国際 NGO は、1) 人身売買防止への取り組み、2) 性産業に従事する女性やその子どもたちへの取り組み、3) 特に農村地域での初等教育を受けられない子どもたちへの取り組み、4) 都市部および農村部での最貧困層への取り組みの4つの課題を国際 NGO として取り組むべき課題と挙げた団体が多かった。なおインドの NGO と取り組む際、インド NGO に対して1) インド政府への団体登録済み(多く

は協会として登録) であること、2) 海外送金受領するための政府からの許可を取得済みであること、3) 納税証明書の提示、4) 英文による外部監査を含む会計報告および年次報告、5) 活動分野および活動地域での経験などの諸条件を求めている。さらに、国際 NGO の中には、インド準備銀行に連絡事務所として登録することで活動している NGO も存在することが分かった。

インド NGO への調査から見てきたこととしては、上記の国際 NGO が考える西ベンガル州で取り組むべき課題のいずれかに取り組んでいる団体が多いことである。その他の活動としては、都市部では女性たちの自立支援のため手工芸品生産活動、スラムに住む子どもたちへの教育支援活動、知的障がいがある子どもたちへの支援活動、人身売買など同じ課題に取り組む NGO のネットワーク活動などがあった。農村地域では、都市部と同様に女性の自立支援のための手工芸品生産活動のほか、マイクロクレジット活動、女性高齢者への支援活動、農民に有機農業による自立支援を行う環境農業普及活動、先住民族の人々への支援活動などを見ることができた。また国際 NGO が掲げる課題や初等教育支援などインド中央政府、州政府が支援する課題への活動は積極的に活動しているが、それ以外の取り残された課題に対して活動する NGO は少ないということも今回の調査で見えてきた。

インドにおいては特に中産階級以上の人々は英語で教育を受けた人々が多く、ある程度の規模以上のインドの NGO には、そのような人々がスタッフとして雇用されている。またインターネット環境もコルカタ市内においては整備されているため、インドに事務所を設置していない国際 NGO とのやり取りについてもそれほど苦労している様子は見られなかったが、農村地域の小規模な NGO や住民組織ではそうした人材や環境の確保は難しく、そのため国際 NGO からの支援が前者に集中する傾向も見られた。

また今回の調査で感じたことは、西ベンガル州において有効な NGO ネットワークが存在しないことである。ネットワークが全くないわけではなく、人身売買への取り組みなど課題毎のネットワークや国際 NGO のパートナーとなっているインド NGO がその国際 NGO の主導でネットワークを実施しているケースなども見られるが、それほど機能しているようには思えなかった。国際 NGO のような外部の団体は勿論、西ベンガル州の NGO や住民組織が他の NGO の活動を得られるようなネットワークがないため、似たような活動をしている NGO 同士でもある程度の規模以上の NGO でなければほとんど交流がない状況である。

最後に、今回の調査を通じて当会の今後インドでの新たな活動として、以下の取り残される人々への取り組みを当会東京事務所に提案した。この提案は引き続き会の中に設置されているインド・タスクフォースで検討されることとなった。

A) 取り残される人々 I ～先住民族 (アディバシ) の人々～

西ベンガル州の西隣、インドの最貧州のビハール州の南隣にあるジャールカンド州には、アディバシと呼ばれる先住民族が住む集落がたくさんある。彼らは隣接する地域に暮らす他の住民に比べて経済的に非常に厳しい生活を送っている。彼らに対する支援活動を本格化していくと、彼らの先住権という土地問題にぶつかり、この問題は州政府とも対峙して行かなければならない政治的な問題である。彼らは、経済状況が厳しいがゆえに移住率も高いため、既存の NGO は彼らに対して積極的に取り組むことをためらう傾向にある。国際 NGO が取り組むべき課題として掲げる人身売買の状況、初等教育を受けられない子どもたちの状況についても、周辺地域と比べてもひどい状況であるにもかかわらず、活動地域として上記理由によって選定されないという状況にある。

B)取り残される人々 II ～女性高齢者 (特に性産業に従事していた女性たち) ～

国際 NGO やインド政府を通じた青少年、子どもといった若い世代に対する活動については、同じ地域でも複数の NGO が活動する様子が数多く見られる。またマイクロクレジットや保健衛生活動など成人女性への活動も同様である。しかし、高齢となり、夫を亡くしたあるいは子どもたちが村から出て行ってしまった女性に対する活動は、多くは見られない。このような背景について、ある NGO のスタッフから国際 NGO やインドの NGO にとって、女性や子どもは支援を実施すると、例えば女性であれば技術を身につけて収入を得ることができた、子どもたちであれば学校に通えるようになったといったすぐに成果を得られるが、女性高齢者についてはそういった成果が期待出来ないという考えがあるのだらうという正直な意見を聞くことができた。国際 NGO が取り組むべき課題として掲げている性産業に従事する女性たちへの取り組みは多くの NGO が実施しているが、かつて性産業に従事していた高齢となった身内のいない女性に対する活動を実施している NGO は西ベンガル州ではまだない。彼女たちの中の多くは性産業に従事出来なくなると今まで暮らしていた地域から追い出され、物ごとや他の家に使用人として働くなど非常に厳しい状況にある。

国際 NGO

- 1) Save the Children West Bengal Office
- 2) terre des hommes suisse
- 3) welt hunger hife
- 4) Lutheran World Service (India)
- 5) CARE India
- 6) Cyriac Elias Voluntary Association (CEVA)
- 7) Action Aid Kolkata Regional office
- 8) Women In Need India
- 9) Indienhilfe e.V.
- 10) trickle up
- 11) Oxfam India

インド NGO

- 1) SILENCE
- 2) Sanlaap
- 3) JABALA Action Research Organisation
- 4) IGSSS (INDO-GLOBAL SOCIAL SERVICE SOCIETY) Eastern Region Office
- 5) DURBAR Project Office
- 6) JEEVIKA DEVELOPMENT SOCIETY
- 7) Tagore Society for Rural Development
- 8) RIGHT TRACK
- 9) Child in Need Institute (CINI)
- 10) HARIPUR AMRA SABAI UNNAYAN SAMITI (HASUS)
- 11) TILJALA SHED
- 12) Shikdhamitra
- 13) Prayasam

- 14) Ramakrishna Mission Ashrama
- 15) Nishtha
- 16) MANOBIKAS KENDRA
- 17) WBEN (WEST BENGAL EDUCATION NETWORK)
- 18) State Resource Centre for Adult Education (WB)
- 19) Vikramshila Education Resource Society
- 20) AHEAD Rehabilitation & Research Institute
- 21) CRY (Child Rights and You)
- 22) SEVA (Society for Equitable Voluntary Actions)
- 23) ankur kala
- 24) Bongo Education Society

本研修成果の自団体の組織強化や活動の発展への活用方針、方法：

本プログラムでの調査をもとに、本人も参加する当会のインド・タスクフォースにおいて今後のインドでの新規活動について話し合う予定。

以上